

阿武隈中山間地域における普通ソバ品種「にじゆたか」の 播種晩限は「会津のかおり」より早い（飯舘村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開段階に応じた新技術の導入と既存技術の体系化

研究課題名 ソバ品種「にじゆたか」の安定生産技術の確立（飯舘村）

担当者 菅野拓朗、三本菅猛

I 新技術の解説

1 要旨

前年度の実証試験において普通ソバ品種「にじゆたか」は「会津のかおり」と同等の収量性を示し、飯舘村において有望視されている。播種・収穫作業の分散のために播種時期別の収量・品質を調査したところ、「にじゆたか」は「会津のかおり」と比較すると播種晩限が早いことが明らかになった。

- (1) 飯舘村前田地区の畑において7/19、8/3、8/17に「会津のかおり」と「にじゆたか」を条播した結果、品種による開花・登熟日数の差は見られなかったが、8/17播種では登熟日数が少し長く、播種期の遅れに伴って開花期以降の気温が低下したためと考えられた(表1)。
- (2) 子実重・容積重は両品種ともに播種期が遅れるにつれて減少した(表2)。「にじゆたか」の方が播種期の遅れによる減少の度合いが大きかった。一方で、2020年は8/13に播種しても本年の7/19播種と同程度の収量が得られており、年次変動が大きいと考えられた。
- (3) 「にじゆたか」は8月以降に播種した場合の年次変動が大きく、本年は8/3播種で容積重が普通ソバの二等の下限値(580g/L)を下回ったことから、7月までに播種することが望ましいと考えられた。「会津のかおり」については8/3播種でも二等に留まっており、8月上旬までは播種できると推察された。

2 期待される効果

- (1) 「にじゆたか」を含めた複数品種で播種期の分散に取り組む際の資料として活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 基肥としてN-P₂O₅-K₂O=2-5-3(10a当たり成分kg)施用した(吸収抑制対策として塩化カリを別途施用)。また、苦土石灰を10a当たり30kg施用した。
- (2) 8/17播種のみ1/2000aワグネルポットでの栽培である。
- (3) 高温による不稔の危険性があるため播種適期より極端な早播きも減収のおそれがある。

II 具体的データ等

表1 生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	播種量 (kg/10a)	出芽期 (月/日)	出芽数 (本/m ²)	開花期 ¹⁾ (月/日)	成熟期 ²⁾ (月/日)	開花日数 ³⁾ (日)	登熟日数 ⁴⁾ (日)
会津のかおり (8/17はポット)	7/19	5.24	7/25	147 ± 16	8/21	9/16	27	26
	8/03	4.90	8/10	137 ± 11	9/07	10/03	28	26
	8/17	5.11	8/26	140 ± 0	9/22	10/21	27	29
にじゆたか (8/17はポット)	7/19	4.57	7/25	152 ± 14	8/21	9/16	27	26
	8/03	4.42	8/10	136 ± 13	9/07	10/04	28	27
	8/17	4.02	8/26	120 ± 20	9/22	10/21	27	29

1)開花期…全体の40～50%が開花した日 2)成熟期…全子実の70～80%が成熟した日

3)開花日数…出芽期～開花期までの日数 4)登熟日数…開花期～成熟期までの日数

表2 収量

品種	試験年	播種期 (月/日)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
会津のかおり (2021年8/17は ポット)	2020年	8/13	93.3 ± 26.6	27.3 ± 1.5	602
		7/19	107.7 ± 5.0	25.9 ± 1.4	647
	2021年	8/03	51.5 ± 2.5	22.6 ± 1.3	580
		8/17	31.5 ± 7.2	18.6 ± 2.2	-
にじゆたか (2021年8/17は ポット)	2020年	8/13	101.8 ± 17.2	30.7 ± 2.3	609
		7/19	107.1 ± 6.2	29.1 ± 0.8	629
	2021年	8/03	28.3 ± 1.1	24.0 ± 1.7	539
		8/17	9.3 ± 2.8	20.6 ± 2.1	-

注)容積重は各反復をまとめて測定しているため標準偏差なし

注)8/17播種はサンプル量が不足したため容積重の数値なし

III その他

1 執筆者

菅野 拓朗

2 実施期間

令和3年度

3 主な参考文献・資料

令和2年度営農再開実証技術情報 ソバ品種「にじゆたか」の浜通りにおける栽培特性（飯舘村、富岡町）